

生徒・同僚に対する わいせつ・セクハラ行為防止研修

教職員として最も大切な原則



人格と尊厳

児童・生徒の一人の人間としての権利を守り抜く。



高い倫理観

常に公教育を担うプロとしての自覚を持つ。



誤解の回避

疑惑を招く曖昧な態度は厳に慎むべきである。

「これくらいなら」の危険性

0

許容されるべき「逸脱」

重大事案への境界線

多くの不祥事は「小さな甘え」から始まります。主観的な「親しみ」が、客観的な「ハラスメント」や「わいせつ行為」に**転じるのは一瞬です**。

一度失った信頼は、学校全体に回復不能な損害を与えます。

重大事案につながるリスク行為

- ▲ 私的なSNS交流：個人的なアカウントでのメッセージ送受信
- 🕒 深夜のやり取り：必要性のない時間帯の連絡
- 🚪 密室での指導：他の教職員の目が届かない環境での2人きり
- 🚗 車での送迎：個別移動に伴う不透明な接触
- 👉 不必要な接触：指導上の必要性を超えた身体接触

プライベートな境界線の崩壊

生徒との距離感を誤らない

デジタル空間での接触は、現実以上に心理的距離を近づけます。SNSを通じた個人的な相談の抱え込みは、最も危険な兆候の一つです。

「自分だけが理解者である」という特権意識が、正常な判断を狂わせます。

不適切な場面を作らない行動指針

重点場面	具体的リスク	徹底すべきルール
部活動指導	感情の昂りによる接触	複数体制での指導・公開性
進路・個別相談	閉鎖的な空間での対話	オープンスペースまたは複数名
校外活動	非日常的な解放感	管理職への事前報告・同行

不祥事防止の基本：3つの原則



しない

いかなる理由があっても不適切な行為に手を染めない。



させない

同僚への相互チェックと注意喚起を怠らない。



見逃さない

違和感や小さな兆候を組織で共有し、放置しない。

組織全体の責任

不祥事防止は個人の倫理観に依存するだけでなく、**組織文化として定着させる**必要があります。

「風通しの良い職場」こそが最大の抑止力

同僚の行動に違和感を感じた際は、**即座に管理職へ相談**してください。
それは、あなたの大切な**同僚と学校を守るための勇気ある行動**です。